

平成29年度岩手県立図書館協議会会議録

1 期 日 平成29年11月24日（金）13：30から15：30

2 場 所 岩手県立図書館 研修室

3 出席者

(1) 協議会委員

中尾 康朗 会長 小山田泰裕 委員 澤口 杜志 委員
箱石恵美子 委員 細川 雅彦 委員 吉丸 蓉子 委員

(2) 事務局

ア 県立図書館

朴澤館長 高橋副館長 日影主査 角館主査 澤口主任行政専門員

イ 生涯学習文化財課

澤柳社会教育主事

ウ 指定管理者（図書館業務担当）

北條総括責任者 似内副総括責任者 姉帯副総括責任者 似内サービス部長
安保総務部長

4 会議の概要

(1) 開 会

岩手県立図書館管理運営規則第10条第2項に基づく会議の成立を報告

(2) 挨拶

朴澤館長

(3) 報告及び協議

ア 県立図書館利用状況等について

事務局から資料No.1及び資料No.2に基づき説明した。

【質疑】

(細川委員) 参考資料No.2、昨年度の来館者アンケート結果の3ページ以降のグラフは、右側の「とても満足である」「満足である」「やや不満である」「不満である」というのが、左のグラフにどのようにあてはまるのか。

(北條総括責任者) 色分けしているものを白黒印刷したため、大変見づらくなっており、恐縮である。満足度、あるいは重要度を示すのが横のバーである。横向きのバーの左から順に、凡例の上から順に記している。

例えば、「本の品揃え」では16%が「とても満足である」、57%が「満足である」、23%が「やや不満である」、4%が「不満である」と答えた割合である。重要度についても、左から68%が「とても重要である」、29%が「重要である」、2%が「あまり重要でない」、1%が「重要でない」と答えて

いる。

これらの数値を分析すれば、68%に29%を加えたおよそ9割の方が、図書館を利用する上で本の品揃えは重要であると答えている一方、23%に4%を加えた30%近くの方が不満と感じているところが重要であると考えている。

(中尾会長) それを踏まえて、何か関連した質問、意見はないか。

(細川委員) 平成28年度県立図書館利用状況で、図書利用の一般の貸出冊数のうち、在宅障がい者等への郵送貸出が、前年度から倍以上に増えている。これは非常にすばらしい。何か要因があるのか。

(安保総務部長) このサービスは、比較的使う方が固定されている。新しく登録された方が使いたすと急激に伸びることになる。この増加の要因は、新しく登録された方が28年度中多かったということである。朗読CDを中心に借りる方が多いが、一通り借り終わるとそこで一旦利用数は漸減していく傾向である。登録者数の増加というのがこの貸出数の増加の要因であると思われる。

(細川委員) この郵送貸出を希望する場合、障がい者の方はどのような手続きをとっているのか。ホームページなどで手続きをすることができるのか。

(安保総務部長) 登録のための基準がある。障がい者等サービス実施要領がありそれに基づいて実施している。要件は障がいの等級、手帳の有無などである。中にはその基準に当てはまらない方もいるが、どうしても来館しての図書館の利用が難しいという場合は配慮している。例えば、今年度、パーキンソン病の方で障がい者手帳の等級が3級で、基準にあてはまらないが、外出が非常に困難だということから、特例としてサービスを行っている。

手続きは、基本は来館していただき、障がい者手帳の提示、申請書の記入をしていただき、貸し出しの手続きはファックスを利用している。貸し出しの申し込みを受けると、カウンタースタッフが資料をピックアップし、梱包し、返送用の荷札を同封し、自宅まで送付している。

(細川委員) 返送代金は個人負担か。

(安保総務部長) 往復、図書館の負担である。

(澤口委員) 新刊の図書を盛岡市内の図書館や、県立図書館から借りている。県立図書館に無いものは他館から取り寄せてもらい借りている。県立図書館に無くても他館から取り寄せられることを利用者が知っていて、もっと気軽に利用できればいいと思う。また、新刊の図書は半年たたないと他館から取り寄せられないということもわかってもらったほうがいいと思う。

(似内サービス部長) 他館からの借り受けの流れは、県立図書館のカウンターで所蔵照会を受け、それを当館が所蔵していない場合、所蔵している最寄りの図書館を案内している。その際、取り寄せもできることを案内しているので、職員に声をかけないとわかりにくいということはお指摘のとおりである。掲示などを検討していきたい。

(吉丸委員) 平成28年度の資料収集状況を見ると、図書の購入が7,916冊だが、この種類別に内訳があるか。また購入するものはどのような手順で決めるのか。

貸出冊数を見ると文学が圧倒的に多く、所蔵状況を見ても文学が多くなっ

ている。文学の比率が多いのかと思うが、状況を知りたい。

(中尾会長) 貸出冊数が分野ごとにばらつきがあることと、購入する図書の選書に関係があるのかということか。

(吉丸委員) はい、当然連動していると思うが、図書館の考え方があろうかと思うので、どのようにして決めているか聞きたい。

(澤口主任行政専門員) 分野別の購入数について今年度のデータは今、持ち合わせていない。当館の選定は、収集方針と選定基準があり、それに照らし合わせ購入している。県立図書館であるため市町村の図書館と基準の傾向は違っている。例えば、貸出冊数は圧倒的に小説、文学が多いが、調査研究や調べものの資料に重きを置いたり、郷土資料、岩手県に関する資料を重点的に購入している。そのため、貸出冊数が多い分野と購入の多い分野は連動していない。

選書の方法は二通りある。一つはカタログからの選書である。国内で年間7万5,000点の新刊書が出版されおり、これについてはカタログで選書している。もう一つは、利用者からのリクエスト等について、会議をもち決定するものがある。資料の選定は、県の職員が選定委員となっていて、窓口業務を担当している指定管理者からも意見をもらいながら、偏りがないように選書をしている。

イ 県立図書館事業実施状況等について

事務局から資料No. 3 及び資料No. 4 に基づき説明した。

【質疑】

(細川委員) 意見が二つ、質問が一つある。

「ビブリオバトル」に関連して、11月9日、10日の2日間にわたり、東北地区の学校図書館研究大会岩手大会が12年ぶりに岩手県で開催された。私はその会長をさせてもらい実施したが、会場はアイーナと月が丘小学校、厨川中学校で、授業と研修会を行い、大変好評で大盛会だった。その中で、附属中学校の生徒が厨川中学校に行き、図書館活用の授業をしたが、その中身がこの「ビブリオバトル」だった。参加者から大変好評で、今後、ビブリオバトルの活動や関心、ニーズが高まるのではないかと思う。

二つ目は「新聞を楽しもう、まわしよみ新聞」というのがあり、おもしろいと思って見たが、来年度、N I E教育の全国新聞教育研究大会が岩手県で開催される。盛岡でも数校の学校が担当する予定である。今年、新聞を活用した授業や実践について協議したが、これから来年度まで、新聞教育や新聞活用についての機運が高まっていくと思う。そういうニーズに沿った行事や活動の展開も必要になると思った。学校にいと県立図書館の活動がわからない。ニーズがある時に、例えば新聞活用のこういった行事、活動、イベントをやる、新聞教育、N I E教育について、こういった書籍が入ったなどということがチラシで入ると行ってみようかという気持ちになる。

質問だが、事業実施状況の中で、運営方針等の策定について、県立図書館

の図書館像があるということだが、この資料は枝葉の部分だと思う。その幹の部分は何なのか、その像がよく見えないため、資料としてつけるか、この場で説明してもらいたい。

(中尾会長) ビブリオバトルのニーズや関心が高いという意見、NIEの新聞教育の機運が高まることと、それに関連したものを期待するという意見である。運営方針等の策定に関しての質問について事務局から願う。

(吉丸委員) そこに関連してだが、説明は根幹から枝葉に流れていくと、今、何を説明しているかが理解できるが、根幹がなくて枝葉の部分の説明になっていて、そこから県の話だった。指定管理者と話が重複している。どのように分担しているかを明確にした上で、事業について説明されるとわかりやすい。どういう方針のもとに、どういうことを大きくやっていて、特に知らせたいことを、根幹から枝葉へ流れていく説明をしてほしい。

(高橋副館長) 委員の方がおっしゃるとおりである。この後の施策推進計画に係る取り組みの状況のところで全体像を説明する。話が前後して恐縮だが、全体的な部分についてはもう一度ふれさせていただきたい。

(吉丸委員) 説明から、多彩な事業を展開していて感心している。多方面から事業を繰り広げていて、それが県民に浸透しているなど感じる。

(中尾会長) 資料が、指定管理者の部分と県職員の部分、二つ混在している状態である。どこからどこまでが責任分担になっているかがわかる形の資料だとよい。

(澤口委員) 先日の県民会館でのシンポジウムは大変おもしろく良かった。たくさんの方が来ていたが、もっと多くの方に来てもらいたかったと思うような内容だった。参加の仕方を工夫したら、もっとたくさんの方が参加者がいたのではないか。

(北條総括責任者) 参加いただき感謝申し上げます。先日もこのシンポジウムについて問い合わせがあり、当日の様子について記録しているものなどはないかということだったが、残念ながら記録として公表する予定はないため、新聞記事を紹介した。今回、国立国会図書館から岩手県で行いたいというお話をいただき、すばらしい方々に集まっただきシンポジウムを開催した。今回のような大きなイベントの運営は初めてで、往復はがきによる参加申し込みとしたことで、ハードルが上がってしまったと反省している。ウェブや電話での申し込みなど、今後も同じようなイベントがあった際は、今回の反省を生かして取り組んでいきたいと思う。

(朴澤館長) 今のことに関連してだが、国立国会図書館と岩手県教育委員会との共催で開催するということが、手続き上、難しいこともあり、県民の皆様にお示しする時期が遅くなった。終わってから、とてもいい内容だったと思うので、私どもも残念に思っている。もし、また同じような機会があったら広報に努めていきたい。

(箱石委員) 団体貸出や相互貸借など、市町村の図書館は大変助かっている。資料1に団体貸出の利用回数と貸出冊数があるが、私の勤務している岩泉町立図書館でも利用しており、利用者から県立図書館の本をもっと入れてほしいという

要望があり、今年度は借りる冊数を増やしている。私たちが選ぶものと、県立図書館が選ぶものとは、目線やニーズが違うため、バラエティに富んでおりとても好評である。利用率も高い。昨年度から3団体が増加し、年4回借りている団体もある。市町村の図書館で利用したいが、理由があり利用ができないなどの状況はないか。もっと利用してもらえば、大変効率的で、予算も減っていることから、利用価値は高いと思う。利用していない図書館はもう充足しているのか、何かネックがあるのか知りたい。

(似内サービス部長) 年4回の貸し出しをしている図書館は、半年単位の貸出期間で、4月に貸し出し10月に返却するのを一つのサイクル、6月に貸し出し12月に返却するのを二つ目のサイクルとして、年4回利用している。そうしていろいろな本を地元の利用者に提供したいという市町村の図書館の要望に応えている。

利用している図書館が限られているのではないかということについては、はっきりとしたことはわからないが、利用している図書館の話から、当館に来館する際は、何人かの職員が車を使って来ることになるが、車の手配ができないということがあった。県立図書館ではたくさんの利用を待っているが、準備が整わないため諦めている市町村の図書館もあるようだ。

(安保総務部長) 今の話に補足すると、直接来館して、ある程度の職員数を確保しないと利用できないところがネックになっているかと思う。

団体貸出とは異なるサービスだが、県内市町村立図書館等の巡回展示がある。他に、郷土資料セット貸出という新しいサービスを始めた。巡回展示で好評だったものを、搬送便を使って、あるテーマに沿った本を30冊程度送るといふもの。このサービスも含めどんどん使ってもらい、県立図書館の資料を大いに活用してもらいたい。

(小山田委員) 団体貸出について、市町村立図書館だけでなく、学校図書館にも貸し出しがあるが、学校図書館では、最近、本を購入する予算がその用途に使われていない現実があるようだ。学校図書館との連携や周知について、今後どのように進めていくのか知りたい。また学校も貸し出しが伸び悩んでいるとすれば、何か障害があるのか伺いたい。

(北條総括責任者) 団体貸出サービスの提供ということから言うと、学校との関わりは難しいところがある。担当する先生に異動がある。先ほど細川委員から附属中学校でビブリオバトルを授業で行ったという話があったが、附属中学校にも訪問し団体貸出についてPRしたこともあった。しばらくの間、利用していただいたが、当時の先生が異動されたのか、最近利用がない。個別でのPRになっているため、細川委員から話のあったチラシなどでの広報の取り組みは不足していると感じる。

一方で、司書が多くいる当館には、教育事務所や学校から、学校図書館の運営についてのアドバイスや県立図書館での取り組みの説明、講義をしてほしいなどの問い合わせがある。こういった要望についてできる限り対応して県立図書館の運営やサービスについて、学校も含めて県内の図書館への周知

に努めている。

(朴澤館長) 補足だが、自分はこれまで学校に勤務していたが、学校では図書館のサービスを知らないのではないかと感じる。指定管理者には、教育事務所や学校から個別に依頼されたことについて対応してもらっているが、もっと大きなところで周知する必要を感じている。細川委員も関係している学校図書館協議会や高等学校との繋がりがあまり無いと思い、校長会の際に資料を提供するなどしているが、もっと意識してPRしていかなければならない。個別ではなく、会議やそういう場に出向きPRしなければならないことを痛切に感じている。せっかくある図書館が活用され、子どもたちの将来のためにも、生涯学習の観点から図書館を知ることが有効だと思う。図書館協会や高校教育研究会の図書館部会などと協力しながら工夫していきたいと考えている。

ウ 「岩手県立図書館施策推進計画」に係る取組みの状況について

事務局から資料No.5-1及び5-2に基づき説明した。

【質疑】

(吉丸委員) 図書館の施策はどれもとても重要で大事かと思うが、その中で、予算的に最も多く割いている部分、職員の労力が使われている部分で最も大きいところはどこになるのか。予算については人件費が最も多いと思うので、人件費を除く事業費について知りたい。

(高橋副館長) 予算についてはご指摘のとおり人件費が特に多い。今年度の当初予算約3億3700万円のうち、指定管理料が約1億6800万円、県職員の人件費が約6700万円である。これを除くと、当然ながら資料購入費が多く2200万円程度である。この他に、県内図書館を結んでいるシステムの運営費などがある。人件費が圧倒的にかかっており、図書館業務は自動化できない部分があり、レファレンスをはじめとした人頼みの業務があり仕方がないことと考えている。

時間を要しているものは、職員数からしても図書館の運營業務自体である。それと同じ程度、市町村の支援などもあり、どれが大変でどれがそうではないということではなく、等しく力をいれている。

(小山田委員) 推進計画の課題に、図書館資料の適切な保存というのがある。デジタル化ということかと思っていたが、媒体適正度テストとあり、またその後に脱酸処理ともあり、古い資料を保存することかと思うが、このことについて説明願いたい。また、予算の制約が非常に大きい分野との印象を受けるが、今後の見通しについて教えてほしい。

(高橋副館長) 二つ目の予算について、図書資料費については、当館のみならず全国的に漸減傾向にあり、どこの図書館も図書資料購入費の減少に悩んでいる。当館では5年前に比べて資料購入費は4分の3になっている。

(澤口主任行政専門員) 媒体適正度テストについてであるが、該当する資料は第二次世界大戦ぐらいまでの出版物で、酸性紙が使われていたものである。酸性紙は長期間保存しているとばらばらになって劣化していくため、計画的に対応す

る必要がある。適正度テストとは、酸性かどうかチェックするもので、薬剤を垂らし色が変わるかで判断するものである。そのテストを行い、酸性のものは一括して脱酸処理をすることになる。予算が厳しく実施には至っておらず、暫定的に中性紙箱や中性紙袋に入れ、これ以上劣化しないように保管している。

(小山田委員) テストについては承知した。例えば建物の耐震補強をする前にまずテストをするのに、そのテストの部分の予算が必要で、その後に本格的にその処理をしなければならないという二段階であるということ。予算的なめどとしては、やはり厳しいのか。

(高橋副館長) そのとおりである。

(小山田委員) どんどん劣化しては大変だと思うが。

(高橋副館長) 資料5-2、1ページの一番下にある、所蔵資料の活用の推進のところ、当初の計画では古文書等のデジタル化は「年間15点以上実施」だが、実際のところ今年度は10点の予定である。

(小山田委員) 劣化し、無くなってからではどうしようもないと思うので、何とか努力をお願いしたい。

(箱石委員) 市町村立図書館に対する支援について、県立図書館の職員が市町村を訪問している。市町村の意見や希望、要望があると思うが、施策に反映されているのか、又、反映したいことなどあるのか。また、肯定的評価の割合の指標もあるが、これをどのように捉えているのか。

(高橋副館長) 当館と市町村立図書館との間で資料のやりとりをしているが、その費用の一定部分まで当館が負担している。当館としても予算的に大変厳しいが、市町村を支援するということから、当館独自の予算で対応している。市町村を訪問すると、これを増やしてほしい又は維持してほしいという要望があり、今年は維持しているが、来年度以降も維持していきたいと考えている。

二つ目の質問の肯定的割合の分析であるが、そこまではしておらず、報告書として作成し、共有している。数値的な分析はしてはいないが、概ね好評だったということである。

(箱石委員) 市町村支援ということで、県立図書館からお世話になっている。相互貸借についても、相互に良い方向でやっていければと思う。

(中尾会長) 電子書籍の活用に関する研究を進めるという項目があるが、電子書籍を導入する可能性について、どの程度検討がされているのか聞きたい。電子書籍は、長所があり、特に岩手県は広い県であり、アンケート結果から、利用者は盛岡市に集中していることから、広域でいろいろなサービスを展開する時には、電子書籍に利点があるかと思う。日本の図書館ではまだ導入している図書館は少ないが、少しずつ増えてきている。このあたりについて伺いたい。

(高橋副館長) 結論から言うと、他館の動向を注視しながら、様子を見ているところである。21世紀当初に電子図書館化ということが国の旗振りで言われたが、その後なかなか現実には進んでいない。当館でも、自館資料の電子化ということにとどまっている状況である。今後も世の中がどう進むか、あまりわかっ

ていないこともあり、加えて利用者から電子書籍が欲しいというリクエストもそれほど多くない状況である。他館の状況などを見ながら検討を重ねているところである。

エ その他

【質疑】

(澤口委員) 子どもから一般向けまで、多種多様な事業をしておりますばらしいと思った。読書は多方面にわたっているということで、読み物、小説に限らないと思う。小学校や中学校の朝読書について、担当の先生にもよるが、朝読書は読み物に限るとしているところが多い。子ども達はたぶん半分以上は読み物よりも自分の好みのあるものがあると思う。例えば、昆虫や企画展にもあった天体ものや、宇宙、物づくり、スポーツ関係などである。多感な時に読書の導きとして自分の好きなものを読んだほうがいいかと思うため、県立図書館が各学校に訪問した際は、読書は多様であること、自分の好きなものからまずとって、そして図書館を利用してほしいと言ってほしい。

もう一つ、うすゆきそう文庫は大変小さい文庫で、来る子ども達も少ないが、最近中学生が多い。小学生の頃から利用していた子がそのまま来てくれる。本も少ないため、例えば5人来たら、5人の好みがばらばらで、限られた予算で子ども達の好きなものを取り置きできない。そういったこともあり、図書館をもっと利用してもらい、自分の好きなものを手にしてほしい。中学生の好きなものは多種多様で、昔でいういわゆる良しと言われた児童文学はまず手にとらないと思う。ヤングアダルトコーナーもあるが、子どもはトレンドイなものや一般書を手に取るように感じる。思春期の子ども達が、ちょっと手に取り、幅広く利用してもらえるような図書館であってほしいと思う。

(小山田委員) 今日、資料を見ながら、様々な事業を幅広く取り組まれていることが大変よくわかった。実施状況や計画の中にある、広報活動の推進ということで、資料を作り、来館者はじめいろいろなところに送っているが、可能なら我々委員にもその都度紹介してもらえないか。協議会でまとめて紹介されるよりも、リアルタイムで活動状況がわかるといいなと思う。予算的なものもあると思うが、可能な範囲で検討してもらいたい。

(吉丸委員) 本当にいろいろ勉強させてもらった。入館者数、貸出冊数が漸減していることは様々な要因が絡まってくるのだろうと思う。また世の中の動きとも関わる。それでも図書館が私たち県民の文化をしっかりと支える砦だと思っており、そこで活動している皆さんに感謝する。選定会議が43回も開催され、図書館にどういうものを蔵書として蓄えていくか、県民を支える文化を保持する上で必要なかということをしっかり考えてやってもらっていることに信頼感を覚える。利用状況や貸出冊数が減ったということに迎合することなく、図書館の思想をはっきりと打ち出し、自信を持って推進していただきたい。

心から支援する。

(中尾会長) 入館者数、貸出冊数の漸減について、いろいろと分析しているかと思うが、満足度調査の「やや不満」「不満」というのが項目によっては割合が高いものがあるが、どういうふうにも不満なのか、どういうところが不満なのかというところを確認することはあるのか。また、何か情報をとることによって原因や、原因究明に役立てられるのではないか。

(北條総括責任者) アンケートの結果のさらなる追跡や確認の調査というものがあるかと思うが、一つの項目について事細かにはしていない。アンケートの最後に自由記入の欄を設けているが、そこに様々なことが記入されている。その中で不満という部分が多く出ている部分に関して分析、検討は行っている。

もう一つは、各事業においてアンケートをとっており、それぞれの事業が利用者にどういうふうにとめられたか、評価はどうだったかはわかるようにしている。

(中尾会長) これだけ多彩な活動をしているので、今後も継続して、さらに盛り上げていってほしい。

時間が少し過ぎているが、事務局から何かないか。

(事務局) ない。

(中尾会長) 以上で本日の協議会における審議事項はすべて終了する。

5 閉 会